2017
Vol.17

九大別府病院だより

Kyushu University Beppu Hospital

新年の挨拶 …… 2
新規採用医師の紹介 …… 3
九大別府病院 リハビリの歴史(最終号) … 4 ～ 7
「皇太子殿下・皇太子妃殿下のご来所」
「紹介元の医療機関のご紹介」…… 8 ～ 9
～牧野リウマチ整形外科クリニック～
第４回市民公開講座 …… 10
第２回東部医療圏地域医療連携セミナー … 11

鶴見岳山頂の霧氷

病院の理念・基本方針

理　念

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

基本方針

◆地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
◆プライマリ・ケア診療の充実
◆全人的医療が可能な医療人の養成
◆専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
◆国際化の推進
◆生活の質が向上できる医療の提供

患者さんの権利と責務

私どもは患者さんの権利を守り、病院の理念に基づいた、公平で良質な医療を提供することを目指します。

九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital

新年のご挨拶

九州大学病院
別府病院長
堀内 孝彦

明けましておめでとうございます。年頭に際しまして一言ご挨拶を申し上げます。

昨年4月には予想だにしなかった熊本地震が起こり、別府でも激しい揺れがありました。皆様への影響が軽微であったことを心よりお祈りいたしております。幸い当院では大きな被害はなく被災された病院から患者さんを受け入れることもできました。今年も職員一同いざというときにこそ地域の皆様のお役に立てる病院となるよう精進いたす所存です。

当院は昭和6年（1931年）の創立以来、今年で86年目を迎えます。この別府の地で九州大学の窓口として質の高い医療を発信しつづけるために、新病院建設を含めた病院再開発計画を進めています。実は当院の再開発計画は別府市の推進している「地域再生計画」と密接に連動しています。別府市の「地域再生計画」は中高年が健康に活躍できる街づくりをめざしており、内閣府の認証を受けた事業です。この事業の中核に当院が位置付けられています。別府市全体の活性化に資するように、そして高齢化が進む日本の医療に貢献できるように、九大別府病院の再開発を綿密に計画し着実に実行していきたいと思います。

さて昨年10月には当院に初めてアサギマダラが飛来しました。美しいそしてロマンチックな蝶です。2000kmを旅する蝶としてご存知の方も多いかと思います。患者さんと職員が一緒になって植えたフジバカマに来てくれたのです。思いが通じた喜びがありました。今年も飛来してもらえるようさらに環境を整えたいと思います。患者さんの癒しに少しでもなってくれればと願っています。今年の皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

当院に飛来したアサギマダラ

Topics 新任医師の着任挨拶

内科

押領司大助

平成28年11月より免疫・血液・代謝内科に赴任しました押領司大助（おうりょうじだいすけ）と申します。専門はリウマチ・膠原病内科で、最新の知見に基づいた診断・治療を行います。リウマチ・膠原病疾患は自己免疫の異常により発症し、ステロイド薬や免疫抑制剤や生物学的製剤での治療を行います。病態が複雑なことが多く、患者さんが理解しにくいことも多いと思いますが、丁寧な説明を心がけていきたいと思います。まだまだ未熟ですが、地域の皆さんに貢献できますよう精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

外科

胡 慶 江

平成28年7月より、外科医員として採用となりました胡慶江と申します。平成23年九州大学医学部を卒業し、済生会福岡総合病院で2年間初期臨床研修を終えて、平成25年に九州大学消化器・総合外科に入局いたしました。その後、済生会福岡総合病院と九州大学病院で1年間ずつ外科医員として勤務しました。

悪性腫瘍をはじめ消化器系疾患全般において、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会の会員として、大分の外科医療に少しでも貢献できるように精進してまいりますので、宜しくお願い致します。

放射線科

脇 山 浩 明

平成28年7月より、放射線科に赴任しました脇山浩明と申します。平成21年に九州大学医学部医学科を卒業し、平成23年に九州大学放射線科に入局いたしました。現在は、体の外から癌細胞を退治する『放射線治療』を専門に診療を行っております。九州大学病院別府病院に来られる患者さんのお役に少しでも立てるよう、尽力する所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

専門医：日本医学放射線学会・放射線科専門医

九大別府病院
リハビリの歴史
vol.3（最終回）

皇太子殿下・皇太子妃殿下のご来所

九州大学医学歴史館学芸員　赤司　友徳 先生

昭和41年9月、当時皇太子だった明仁皇太子殿下と美智子皇太子妃殿下ご夫妻は大分駅に降り立たれました。ご夫婦そろっての大分入りは初めてのことで、小雨にもかかわらず、駅前には約11万人の市民が出迎え、駅前広場が埋め尽くされました（『大分市報』昭和41年9月1日号）。行幸啓の目的は9月18日から開催される大分国体（第21回国民体育大会、通称剛健国体）ご出席のためでした。大分でのご予定には九州大学附属温泉治療学研究所（以下、温研）の視察も含まれていました。

今回のコラムは9月19日の温研視察の際に作成された説明資料と写真帖をもとに、当時の温研の状況と明仁天皇、美智子皇后の若かりし時代の貴重なお写真をご紹介します。ご視察の随伴者になったつもりで、当時の雰囲気を味わっていただければ幸いです。

職員によるお出迎えの様子

午前、お二人がご降車なされると、緊張した面持ちの温泉治療学研究所全職員によって心のこもった出迎えが行われた。八田秋（はった おさむ）所長による恭しいご挨拶のあと、本所が戦前からの35年の歴史を持ち、温泉研究施設・療養型施設として最適な環境にあることを誇らしげに語られた。

続いて、八田所長は所内の各施設と部門の説明をなされた。内科、外科、産婦人科、皮膚泌尿器科の医学4部門とその臨床科、温泉の成分分析を行う温泉理学部門の合計5部門、職員は教授4名、助教授6名、講師2名、助手20名、副手9名などのほか、大学院学生8名、研究生24名、看

皇太子殿下とご説明する八田所長

護婦35名、薬剤部長などの診療関係職員が16名、事務員58名の合計183名とのこと。なお年間の外来患者数は約3,800名、入院患者数は約3,600名であるそうだ。

普通の研究所や病院とは違う性質をもつ所ということもあって、温泉治療・研究に必要な諸施設、とくに中性子発生装置とアイソトープ研究室、環境の特徴を把握するための気象観測装置の説明には、八田所長の力が入っていた。

次に、建物を見て回ることになった。まずは1階から説明が始まった。リウマチ性の病気、関節炎、神経痛等の治療に使われる鉱泥浴室は、『豊後風土記』にも記された由緒ある紺屋地獄から採取してきた非常にきめの細かい泥を湯に混ぜているそう。全身の入浴が困難な人が利用する手浴、足浴、細長い水槽に足だけをつけて歩くクナイプクール、痔疾や婦人科関係の治療に利用される薬浴、坐浴、蒸気圧注を見て回った。特に皮膚科で用いられる薬浴では、硫黄、カモミール、タールなどを加えた温泉水に、堀田温泉から引いた硫化水素と炭酸ガスなどを含んだ温泉水も混ぜられており、傷だけでなく血中のコレステロールもよく下げる作用があるとのこと。炭酸浴は、温泉の中でも一番よく調べられているという炭酸泉の作用を応用したもので、明らかに血圧を下げ、心臓に対しても庇護的な作用があるのでヨーロッパでは「心臓泉」と名づけられており、別府には天然の炭酸泉がないので特別な装置で作っているそうだ。それから長さ約10メートル、深さが3段になっている大きな運動浴槽は中風（ちゅうぶ）（脳血管障害の後遺症による麻痺、運動障害など）、小児麻痺、脊髄神経障害など手足が弱い患者でも早めにリハビリを行い、筋肉の萎縮や機能回復を早める訓練を行うことができると言う。1階最後は浴中に電流を流す電気浴の説明で締めくくられた。

2階に上がると、再び八田所長による温泉作用の説明が始まった。

> 温泉につかると浮力、水圧、温度などの物理作用があり、その他に温泉の含有成分による化学的作用が加わる。この点が真水の風呂と異なるわけで、温泉成分は単に皮膚の表面を刺激するばかりでなく、現在わかっている約60種の成分が経皮的に吸収されることがアイソトープ実験の結果確認されたのであります。（中略）温泉の個々の薬学的作用のほかに含有成分の綜合的作用として体に刺激が加わる結果、生体の反応が起こり、これを繰り返すことによって自律神経系、内分泌系、酵素系などが調整されてかような正常化作用が起こるものであります。このことが体質性の疾患に温泉がよく効く理由でもありますし、かように体調が整えられること

によって栄養分ビタミンなどの体内での利用が上手くいくようになるし、薬物などの効果も上ることになるのであります。その結果表面に現れるほどでなくても目に見えない傷がはいっておると申しますが、生活力の低下したような原爆被爆者達にも温泉が体調を整えて正常に近づけてくれるのであります。

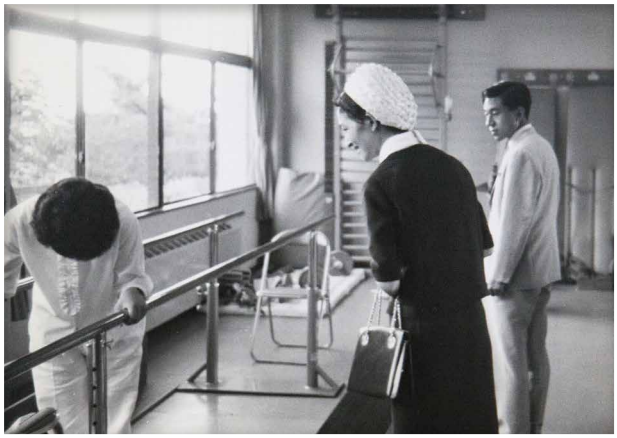
八田所長はご専門の「原子爆弾被爆者の温泉治療」にも触れられたが、被爆者の健康管理に湯治がすぐれた効果を上げるとは驚いた。八田所長も関わっておられる原子爆弾被爆者別府温泉利用研究所は昭和35年の開所以来、数千名の利用があったそうだ。

次に、お二人はリハビリテーション室に招き入れられ、歴史的経緯の話を始められた。

リハビリテーションのねらいは障害を受けた体に自発的に訓練してもらって日常生活または職業に復帰させるのであります。こういった考え方は従来温泉療法、物理療法などでも行われてきたのでありますが、今度の世界大戦後多数の戦傷兵や、交通事故、産業事故などによる障害者の数がおびただしい数にのぼったために国家補償費が莫大な額になったので、殊にアメリカで補償費の節約、労働力の確保の必要上、障害者に積極的な意欲を持たせる訓練法を工夫したわけであります。

私はこの話を聞きながら、また実際にリハビリテーションに励む患者さんを前にして、温研の取り組みの大切さに思いが及んだ。戦後20年を経ても戦争の後遺症に悩まされている人が多かったこと、高度経済成長期を象徴する車がもたらす被害に苦しむ人々が少なくない状況が垣間見え、それに寄り添う説明をされた八田所長に医療に携わる者の決意と慈愛を見たような気がした。

さて、この部屋には珍しい器具が多数あり、殿下妃殿下は非常にご興味をお持ちだった。また、お二人は患者さんに優しくお声を掛けられ、励まされておられたのは印象的だった。歩行訓練用の歩行補助平行棒、外反足・内反足の矯正に用

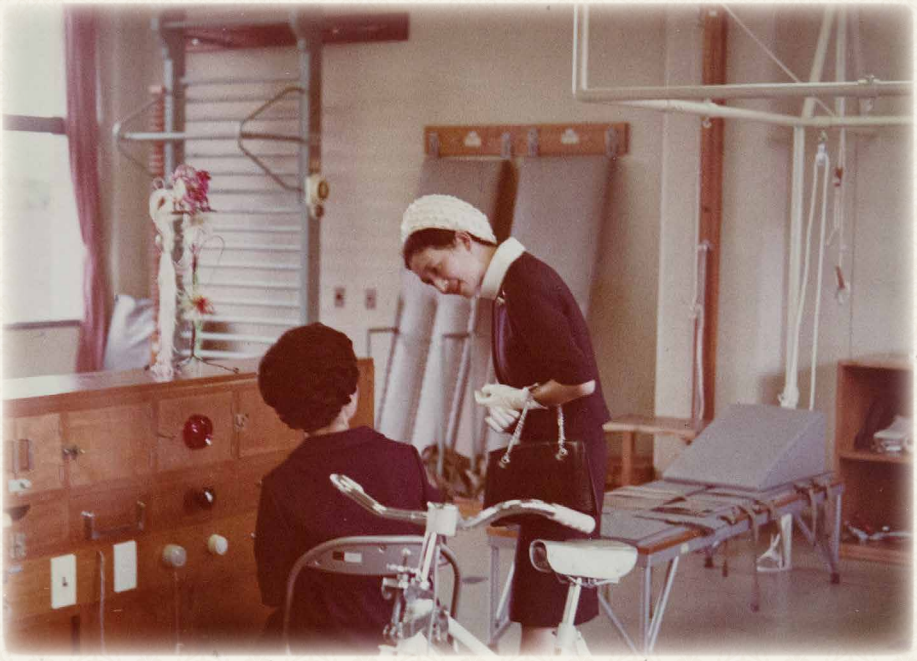


患者さんにお声をかけられる皇太子妃殿下

リハビリ器具のご説明を受けられる殿下、妃殿下

いられる歩行板、そして内外反足や尖足の治療用の矯正起立板などがあった。引き出しやハンドル、スイッチ、水道栓などが雑多に付けられた器具は日常生活に必要な動作の訓練を行うためのものだそうで、合格点を越えると赤いランプがつき、サインが鳴るという。よく考えられたものだ。八田所長の説明はますます熱を帯びていて、温研において、リハビリテーションが温泉治療とともに重要なものとして位置付けられていることがうかがわれた。

終始、ご夫妻は興味深げに、熱心に八田所長の説明に耳を傾けられていた。こうして短い時間ではあったが、温研の全案内が終了した。お二人が大勢の職員によって盛大に見送られるなか、大役を務められた八田所長は胸をなで下ろしておられた。



患者さんのお話をお聞きになる皇太子妃殿下

今回で私のコラムは終わりです。短い間でしたが、お付き合いいただきありがとうございました。執筆の準備のために、あれこれ「温研」について資料を探すのはとても楽しく、また勉強になりました。あらためて「温研」や九大別府病院に関心をもった次第です。

またの機会を楽しみにしております。

紹介元の医療機関のご紹介

牧野リウマチ整形外科クリニック

院　長
牧野　晋哉　先生

牧野リウマチ整形外科クリニック

当院は1978年に私の父、牧野建紀が別府市船小路に開設し、地域医療に邁進してきました無床診療所です。私は2010年に勤務を開始し、2015年より院長として従事しています。私は平成11年九州大学整形外科教室に入局し、北九州の九州厚生年金病院、国立別府病院、久留米の新古賀病院、九州大学病院などで研修をさせていただき、宮崎の潤和会記念病院で4年勤務したのちに生まれ故郷の別府に戻りました。もともと外傷など一般の整形外科を中心に臨床および研究に従事していましたが、遠賀郡の芦屋中央病院に勤務中に関節リウマチの患者さんを診察する機会が多くあり、その経験が翌年九州大学に戻った際に関節リウマチを専攻するきっかけになりました。今から15年前までは関節リウマチでは関節破壊を抑えるような薬剤がなく、ステロイド薬、NSAIDs(いわゆる痛み止め)が中心で膝、股関節などの人工関節、頸椎などの固定術がよく施行されていました。1999年より本国でもMTXが使用可能となり、2002年より有効性の高い生物学的製剤が登場し、関節リウマチ治療は一変しました。登場当初は活動性の高いリウマチの進行した患者さんに使用することが多かったのですが、次第に早期で関節破壊の進んでいない時期に使用することができるようになり、生物学的製剤の位置づけ、使用法も変貌してきました。私は九州大学、潤和会記念病院でもそれらの薬剤を使用する機会を多くいただきましたので、その経験をもとに現在もオーダーメイド治療を意識し、極力ステロイド剤、NSAIDsを使用することなく関節破壊を防止し寛解を目指すリウマチ治療を心がけています。しかし基幹病院と同じレベルの治療を診療所でもできるということは一方では同じような全身病態把握のためのCTなどの検査を行う必要もあり、また従来の薬物治療では考えられないような重症合併症も想定されますのでその対応には診療所の設備だけでは限界があります。九州大学病院別府病院はじめ基幹病院と病診連携をさせていただくことにより、早期関節リウマチ疑いの症例を関節エコーやMRIを活用させていただくことで正確に診断できるようになり、様々な病態の難しい患者さんでは堀内教授、木本先生はじめスタッフの方々に受診していただくことで問題を解決しています。当院は無床診療所のため、入院での検査、有害事象などの際も時間外でも快く対応いただき感謝しています。また別府ではゆけむりネットという医療ネットワーク

◆DATA

住　　所：別府市船小路町2番36号

電　　話：0977-25-2121

所属学会：日本整形外科学会、日本リウマチ学会、
九州リウマチ学会、日本臨床リウマチ学会、
西日本整形災害外科学会

資　　格：日本整形外科学会 専門医、リウマチ認定医、
日本リウマチ学会専門医、リウマチ財団登録医

診療科目：整形外科・リウマチ科・リハビリ科

◆アクセスMAP

が他に先駆けて構築されており、九州大学別府病院などのネットワークに個々の患者さんを登録することで検査の重複を防ぐことができ、処方もその都度確認できるので患者負担の軽減、重複処方などの防止にも繋がっています。快くご協力いただいています各科の先生方に重ねて御礼申し上げます。今後も患者さん中心の病診連携を続けていければと考えています。また診療所にはMRIの設備がなくMRIによる診断が望ましい患者さんは他院で施行いただくことになるのですが、九州大学放射線科では全脊椎MRIという頸椎から腰椎まで一度に脊椎を撮像できる装置があります。そのため1回の検査での正確な原因検索にとても助かっています。整形外科領域では脊椎疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなど）で症状が強く麻痺や間欠性跛行などを生じ、外科的治療が必要な方もしばしばおられます。

九州大学別府病院整形外科は最新の小侵襲手術なども積極的にされており、当院より手術をお願いすることもありますが、紹介させていただいた患者さんの満足度もとても高いようで感謝しています。長年当院で外来診療を行い手術に移行した患者さんが術後非常に元気で経過がよいのをみると安心します。患者さん一人ひとりの病状に対して正確に診断し丁寧に説明を行い選択しうる治療法を提示したうえで安心して治療を受けていただけるように、私をはじめスタッフ一同努めてまいりますので、今後とも何卒どうぞよろしくお願いいたします。

当院へご紹介いただいている先生方の「紹介元の医療機関のご紹介」を掲載しています。広報誌は、県内の医療機関（病院・医院・クリニック）、九州大学病院本院（福岡）、別府市内の施設関係等に配布しております。掲載をご希望の医療機関は、地域医療連携室（0977-27-2055）までご連絡いただけますようお願いいたします。

（地域医療連携室長　平川　雅和）

第４回　市民公開講座を開催しました。

聖路加国際病院
乳腺外科部長･ブレストセンター長　山内 英子 氏

昨年８月21日（日）別府ビーコンプラザにおいて、九州大学病院別府病院、第４回市民公開講座を開催しました。

今回は、その第４回目で、特別講演に先立ち、堀内孝彦病院長からの挨拶のあと、当院診療科･部門より情報提供を行いました。①内科の堀内孝彦教授より「リウマチ、がん、生活習慣病の診療の進歩」について、②外科の三森功士教授から、「大学病院外科としての未来型診療へのとりくみ」について、③整形外科の土井俊郎准教授から、「脊椎外科治療の進歩」について、④放射線科の平川雅和准教授から、「新たな３Dマンモグラフィー撮影法『トモシンセシス』が切り開く乳がん早期発見への挑戦」について、⑤慢性疾患診療部の前田豊樹准教授から、「慢性の痛みに対する温泉療法」について、最新情報を報告しました。

後半の特別講演では、聖路加国際病院の乳腺外科部長で、ブレストセンター長でもある、山内英子先生をお招きし、「病を乗り越えて　ますますあなたらしく―治療と仕事の両立、治療後の生活を考えて―」と題して講演を行っていただきました。先生のご主人も、同病院の腫瘍内科で、共に患者さんの治療にあたっているということで同行されていました。

聖路加国際病院では早くから治療と仕事の両立の支援が始まっており、がん患者さんのためのグループ療法「就労リング」を開催し、社会保険労務士やソーシャルワーカーと一緒にグループ学習や話し合い、個々の経験を共有し合い、患者さん一人一人が適切な対処や仕事のバランスを見いだすことを目指しているご紹介がありました。

患者さんの、受療による労働損失の話のあと、「仕事をすぐにあきらめないでください」「出来ることをご一緒に行なっていきましょう」という語りかけがありました。また、がん患者の就労を困難にする問題の一つとして、「がん化学療法に伴う認知機能障害（Chemobrain）」ということばや予防、対処法はまだ明らかになっていないということで、生活への影響を伴うということのお話をいただきました。

乳がんと診断された多くの方が、患者らしくしなければという気持ちで苦しんでいる姿を目の当たりにしますが、病になったからといって、患者らしくしなくていい、あなたらしく生きてほしい。患者さんには、自分らしさを見失わずに、病と共に自分の人生を歩んでいってほしいという励みの言葉を会場の皆様方に最後にいただきました。

「第2回東部医療圏 地域医療連携セミナー」を開催しました。

平成28年7月11日（月）に、第2回東部医療圏地域医療連携セミナーを、開催いたしました。当院病院長の堀内 内科教授より開催の挨拶の後、一般演題、特別講演を行いました。

前半は、当院内科准教授の前田豊樹先生の司会で、当院内科より①「リウマチ性多発筋痛症精査中に発見された早期胆嚢腫瘍の一例」（中野未来医師）、②「周期性発熱をきたした32歳男性」（久本仁美医師）、③「診断に約10年を要した成人成長ホルモン分泌不全症の一例」（深田陽子医師）の一般講演を行いました。

後半の特別講演は、三森 外科教授の司会で、「肝臓癌治療の展望～外科医の視点から～」と題して、当院外科の黒田陽介医師が行いました。続いて、堀内 内科教授の司会で、大分三愛メディカルセンター臨床研究部長の生山祥一郎先生より、「高齢者における糖尿病治療」と題して、特別講演を行っていただきました。参加された先生方より、「肝癌の治療について、最近の話題と現状についての報告が参考になった」「一般演題で、通常経験しない症例呈示があり、興味深く拝聴しました」「生山先生の糖尿病の治療についての講演内容はわかりやすかった」「内容が充実しており、幅広い知識が得られました」「若い先生、聞きに来る人のためになる内容に絞った方がよい」等のご意見をアンケートで伺うことができ、大変感謝申し上げます。今後のセミナーに生かして参ります。

次回は、ホテル白菊にて、1月24日（火）に開催予定です。これからも、この会をより良い医療に還元しうるよう、また先生方の有意義な勉強会となりますよう努力してまいります。コンサルト症例などありましたら、当日の持ち込みも歓迎いたします。また日本医師会生涯教育単位も取得可能でございますので、多くの先生方に参加していただきますようお願い致します。

九州大学病院別府病院　外来診療案内

（平成29年1月1日現在）

科名	診療区分	月	火	水	木	金
内科	リウマチ・膠原病	堀内孝彦 木本泰孝	堀内孝彦 押領司大助 塩沢俊一	木本泰孝 中野未来 塩沢俊一	病棟回診日	堀内孝彦 木本泰孝 押領司大助
	糖尿病	深田陽子	――	――		深田陽子
	血液病	――	伊藤能清	伊藤能清		伊藤能清
	がん・腫瘍	田村真吾	田村真吾	――		――
	消化器	田村真吾	田村真吾	――		――
	慢性疼痛	――	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹（再来）	――
	骨粗鬆症	――	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹（再来）	――
	循環器／心不全	樋口義洋	樋口義洋	樋口義洋	病棟回診日	（小柳雅孔）
	循環器／肺高血圧	樋口義洋	樋口義洋	樋口義洋		（小柳雅孔）
	循環器／下肢血管	小柳雅孔	（樋口義洋）	小柳雅孔 （第2・4週は午後のみ）		小柳雅孔
	睡眠時無呼吸	小柳雅孔	（樋口義洋）	小柳雅孔 （第2・4週は午後のみ）		小柳雅孔
外科	一般 消化管 肛門	三森功士 江口英利 伊藤修平	手術日	三森功士 伊藤修平 黒田陽介 林直樹	手術日	三森功士 江口英利 黒田陽介
	肝・胆・膵	江口英利		黒田陽介		江口英利 黒田陽介
	乳腺	三森功士 増田隆明		三森功士 増田隆明		三森功士 増田隆明
整形外科	脊椎外科（全予約制）	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志 田中宏毅	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志 田中宏毅	手術日
放射線科	放射線治療	寺嶋広太郎	寺嶋広太郎	――	寺嶋広太郎	――
	放射線画像診断	平川雅和	坂本勝美	平川雅和	平川雅和	平川雅和
共通	上部消化器内視鏡	江口／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	田村／江口
	下部消化器内視鏡	坂本／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	田村／坂本
	EMR/ESD	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美
	ERCP	――	――	――	――	――
	セカンドオピニオン	要予約				

※担当医は変更となる場合がありますのでご了承ください。

初診・再診の受付時間 8:30 ～ 12:00 ・整形一完全予約制：地域医療連携室へ要Tel ・放射線治療一初診 8:30～11:00

※但し土日、祝日は休診（急患は除く）代表電話：0977-27-1600、地域医療連携室：フリーダイヤル：0120-272-518、直通：0977-27-2055

地域医療連携室より 問合せ先ご案内

◆CT・MR・骨密度・内視鏡検査のご依頼

放射線科受付 0977-27-1722（直通）

・検査依頼は、電話にて受け付けております。依頼検査優先時間帯を設けています。
・結果は、CDデータ、報告書とともに、ご依頼いただきました先生方へ迅速にお返事いたします。

◆放射線治療のご依頼

地域医療連携室 0120-272-518（専用）
0977-27-2055

・乳癌、食道癌、肺癌、前立腺癌、悪性リンパ腫、癌性疼痛に対する緩和治療、その他の悪性腫瘍についてはご相談ください。
・放射線治療の診療は、事前に連絡をいただければ、待ち時間が少なくなるよう配慮させていただきます。

その他、外来・入院に関するお問い合わせ

月～金　8:30～17:00　0120-272-518（専用）
TEL：0977-27-2055（直通）　FAX：0977-27-3008（24時間受信可）

九大別府病院だより Vol.17

九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital
〒874-0838　別府市大字鶴見字鶴見原 4546 番地
代表　TEL 0977-27-1600
URL　http://www.beppu.hosp.kyushu-u.ac.jp/